

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、さぎの宮圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和4年6月27日（月）9時30分から11時00分まで
参加者	委員：11人 事務局：1人 その他：13人（高齢者福祉課：2人、東区長寿保険課：3人、笠井・長上協働センター：2人、包括支援センターさぎの宮：2人、浜松市社協：4人）
場所	笠井協働センター講座室
内容	<p>1 会長挨拶</p> <p>2 前回の振り返り 事務局から昨年度の内容の報告及び生活支援体制づくりについての説明。</p> <p>3 意見交換会 今後の進め方等について協議 [意見等]</p> <p>[笠井地区]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だるま会（家事支援事業）の発足を考えている。組織づくりについては自治会、地区社協、民児協の主要メンバーで検討していく。ボランティアの人材については、民生委員を退任する人たちにも声をかけていきたい。 ・移動スーパーが地区内に数ヶ所来ているが、ある場所では、客が少なくて困っているとの話も聞く。買い物難民に関しては高齢者だけでなく、子育て中のお母さんや長期休み中のこどもも利用するようにすれば交流の場になる。 ・買い物を行ける人は元気な人。買い物に行き、いろいろ人に会うと交流の場となる。ごみ捨てや草刈りの相談が多いがシルバー人材センターとの関連はどうか。商売の敵になってしまうので、すみわけをしっかりとしないといけない。 ・私は機会のあるごとにボランティアの話をしている。元気なお年寄りがちょっと弱ったお年寄りを見守って助けることが大切ではないかと呼びかけている。 <p>[長上地区]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事支援の利用件数及び支援員延べ人数は年間611件、852人。ゴミ出しや草取りが多い。子供を見守りや話し相手等の依頼もあり、新たな依頼内容に戸惑うこともあった。 ・12町のうち半分ほどは支援リーダーが決まっており、各町で依頼を受け付けている。リーダー未定の町については事務局で一括して依頼を受け付けているため、今後、全町に支援リーダーを置くことを目標としていく。 ・支援員等の担い手の高齢化の問題もあるが、今後の活動も継続していきたい。 ・知区社協や家事支援の担い手発掘のことも踏まえ、まずは地区社協を知ってもらうための取り組みとして“ながかみの輪”を立ち上げた。フラワーアレンジメント等をテーマ講座として開催し、地区社協に関わってもらいつつ活動の周知をしていく。 ・団地に移動スーパーとくし丸が来ているが、エレベーターが無いため部屋まで買ったものを運ぶのが大変だという高齢者もいる。運ぶのを手伝う支援も今後検討してはどうか。 ・高齢者は独居の方も多いため一度きりの支援ではなく継続して関わっていくことが大切だと実感した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・家事支援を行う中で知り得た情報は、民生委員でも知らないことがあるため情報共有ができるとよい。また、支援員が地域での見守り体制の一員としていてくれることは民生委員としても心強く感じている。 ・活動も2年目に入り新たな課題も見えてきた。今後は細やかな意見も取り入れつつ、改善しながら進めていきたい。 <p>4 各地区からの報告 地区ごとに話し合った上記の内容についての報告。</p> <p>5 その他 令和4年度会議予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月、9月、1月または2月の年3回を予定している。 <p>6 副会長挨拶</p>
今後の見通し等	令和4年度第2回協議体会議については、令和4年9月21日13時30分からの予定。